

審議会会議録

1	会議の名称	平成27年度第1回富津市子ども・子育て会議
2	開催日時	平成27年9月11日 午後1時～午後4時30分
3	開催場所	富津市役所502会議室
4	審議等事項	富津市の今後の子ども・子育て支援について
5	出席者名	委員 木下照代、白井まり子、齋藤隆広、渡邊武雄、能城美佐子、 鈴木眞廣、君塚善恵、岩瀬志帆、岡村京子、松倉佳子、渡辺 務、菊池定勝 事務局 磯貝健康福祉部長、下間子育て支援課長、小野田課長補佐、 鈴木子ども家庭係長、渡邊主任主事、健康づくり課圓川総括 保健師、学校教育課細谷指導主事
6	公開又は非公開の別	公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7	非公開の理由	
8	傍聴人数	0 人（定員5人）
9	所管課	健康福祉部子育て支援課子ども家庭係 電話 0439-80-1256
10	会議録（発言の内容）	別紙のとおり

平成 27 年度第 1 回富津市子ども・子育て会議 会議録

発言者	発言内容
事務局・鈴木	1 開会
渡辺会長	2 会長挨拶
磯貝健康福祉部長	3 健康福祉部長挨拶
	<ul style="list-style-type: none"> ・委員交代について
	齋藤委員挨拶
	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局の自己紹介 ・会議の成立
事務局・鈴木	<p>本日、富井委員、井上委員、相澤委員が欠席で、12名の委員の方が出席でございます。よって、過半数を超えており、子ども・子育て会議設置条例第6条第2項の規定により、会議は成立しております。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の公開
事務局・鈴木	<p>この会議につきましては、富津市情報公開条例第23条の規定により、会議は公開することとなっております。</p>
	<p>本日の傍聴人はおりません。</p>
	4 グループ討議
事務局・下間	<p>次第の4グループ討議についてご説明いたします。</p>
	<p>今年度の会議につきましては、前年度の最後の会議におきまして、今後の子ども・子育て会議の進め方について、テーマを決めて、少人数でこれからの子ども・子育て支援について討議したらどうかという意見を元に、妊娠マタニティ期と未就園児期、及び学齢期の3</p>

事務局・鈴木	<p>つのグループを決めていただきました。今回、そのグループで討議していただきたいと思います。</p> <p>グループに分かれる前に、今市で行っている経営改革等について少しお時間をいただき、ご説明させていただきます。</p> <p>資料の1をご覧ください。今年度、市役所では、経営改革といたしまして事業仕分けを行いました。仕分けの対象事業は、この事業名一覧のとおりで、子育て支援課の事務分掌では14-1「私立保育園予備保育士設置事業」と14-2「延長保育促進事業」、15「子ども医療対策費」の3事業で、結果は延長保育促進事業が「現行どおり」で、ほかの2つの事業は「要改善」となりました。</p> <p>資料2をご覧ください。事業仕分けとは別に、市の総合計画である富津市版総合戦略を策定するため、25年後の2040年の富津市の推計人口を35,000人として、地方創生会議及びそれに付随する市民委員会を設置して意見を聞いております。この内子育てに係る意見について資料としてこの後ろにつけてありますので、グループ討議の参考にしていただければと思います。</p> <p>それでは、時間は3時までを目安にしております。各グループのメンバー及びグループ長、担当の事務局員は分科会グループ名簿のとおりでございます。それぞれグループ長に従って討議していただきますようお願いいたします。</p> <p>それでは皆様、お手数ですが、ここの会場は「妊娠マタニティ期」のグループでお集まりください。「未就園児期」と「学齢期」のグループについては、隣の503会議室にお集まりください。皆さんがお揃いになりましたら、グループごとに適宜開始していただければ</p>
--------	---

事務局・鈴木	<p>ばと思います。よろしく願いいたします。</p> <p><グループ討議></p> <p>それでは、皆様、お集まりになりましたので、次第5議題に入りたいと思います。</p> <p>ここからは本会議設置条例第6条の規定により、会長に議長をお願いいたします。</p>
渡辺会長	<p>それでは、議長を務めさせていただきます。</p> <p>グループ討議については、長時間に渡り、お疲れ様でした。引き続きよろしく願いいたします。</p>
渡辺会長	<p>・会議録署名人</p> <p>議題に入る前に本日の会議録署名人を指名いたします。会議録署名人は、岩瀬委員を指名いたします。</p> <p>それでは、議題について、事務局から説明を求めます。</p>
事務局・下間	<p>5 議題</p> <p>(1) グループ討議の報告及び検討</p> <p>まず、各グループから討議の結果を5分程度で発表していただきます。</p> <p>次に、グループ討議の結果をもとに、子ども・子育て会議としましてのご意見を検討していただきたいと思ひます。</p>
渡辺会長	<p>グループ討議の結果を各座長からお願いしたいと思ひます。最初に共通の認識として皆さんに持っていただきたいのが、この会議は今回と次回とで何らかの意見や方向性をまとめようと思ひています。しかし、それは必ずしも結論を出さなくてはいけないとか、きち</p>

松倉委員

んとした提言としてまとめなくてはならないとかというものでも性格上ないのかなと思います。ただ、特に予算が絡むものについては、市の予算編成がもうすぐ始まると思いますので、それに反映させるべきものは、今日のこの会議である程度の方向性を出しておかないと間に合わなくなりますので、それを踏まえて皆さんで議論していただきたいと思います。

それでは、妊娠マタニティ期から発表をお願いしたいと思います

妊娠マタニティ期の議論の方向性として、委員の方々に宿題という形で考えてきていただきました。ただ、妊娠期は特に限られた期間で、その時期を過ぎてしまうとその時のことは終わってしまうというのが現実で、なかなか考えるのが難しかったです。この期間に特定するというよりもその前後に目を向けて、考えていきたいと思いますということからスタートしました。

子ども・子育ての計画策定の際のアンケートの中で、マタニティ期のことについて調べてみましたが、ほとんどなく、就学前児童対象のアンケートの自由記述の中に妊婦健診のお金の補助についてあげられていた状況でした。

話し合いの中では、委員の方が周りのお母さん方にお話を聞いて下さって、その意見の中でどういうことが出てきたかということから話をしていき、大きく上げられた項目として、キーワードが3つ出てきました。一つ目は「仲間づくり」、二つ目は「生活環境について」、三つ目は「金銭面のことについて」でした。

まず、「仲間作り」についてあげられた項目としては、マタニティ講座や母親・父親講座を開講してほしいということでした。市では母親学級を平成25年度ま

で実施していたとのことですが、集まる人が少なかったとのことでした。母親学級は、医療機関で行ってもらうということで、市では母子手帳を取りにくる時に「妊娠期の健康管理ことについて」を個別にお話しするという事に切り替えたとのことでした。もちろん母親学級は、保健分野での妊婦さんの健康管理ということがメインですので、母親学級において仲間作りということに主眼を置いていないということでした。また、本日欠席されている井上委員から友達ができるような環境を作って欲しいと意見もありましたので、仲間作りということを子育て支援センターや保育所等がマタニティ期から担っていけたら良いのではないかという意見が上げられました。

このマタニティ講座のもう一つのキーワードとして、お腹の中に子どもがいる段階で、小さい子とのふれあいをすることです。今まで子どもとの関わりが無く過ごしてきて、これから子育てをするうえで子どもとのふれあい体験ができたらいいのではないかという意見がありました。これは、鈴木委員の保育園でもやっていたということの話を聞きましたが、どのようにそういう講座をやっているかという情報提供をどのようにしていくのが課題かなという意見がありました。

子育て支援センターや保育園でそういう仲間作りやふれあい体験という場を担ってもらって、市は、情報提供という部分を担うという仕組み作りができたらいいなということでした。

二つ目の「生活環境について」ですが、まず大きな問題として、産科が無いということと、小児科や皮膚科といった子どもがよくかかると思われる病院がない

	<p>ということが上げられました。そして、駅によると思いますが、バリアフリーが十分でなく子どもを連れての利用が大変であること、公的機関のトイレが和式のところがあり、妊娠期に利用するのに大変であったという意見が上がりました。また、アンケートの回答で多く出てきたのが、公園の整備で、安心して遊べる、きちんと整備されている公園がないという声が多く上げられました。</p> <p>三つの目の「金銭面について」ですが、妊娠期の健診に係る券は出ていますが、病院や健診によってはプラス自己負担が発生しますが、その部分の補助をしてもらえたら良いのではないかという意見や、出産祝い金ที่เขา市は出ていますが、何人目以降の場合などで出たら良いなという金銭的な手当てや補助についての意見がありました。金銭面については、妊娠期の出産や病院に係るお金ということがあるかもしれませんが、子育てをしていく中で大きな部分を占めることだと思いますので、妊娠期で終わる話ではないかなと思います。</p> <p>ありがとうございました。続いて未就園児についてお願いします。</p> <p>「未就園の家庭の支援について」ですが、私や木下委員や和光保育園の子育て支援センターに通っているお母さんに聞いた意見をまとめました。母親の意見としては、一時利用としてちょっとした育児の手助けをお願いしたいけど頼む手立てがないこと。また、同じ環境や立場のお母さん達と関わる機会が得られにくいこと。子育てにおいてサービスを使うことの罪悪感をどうしたらよいかということの3点がありました。</p> <p>その中で一番重要としたことは、出会いの場があっ</p>
渡辺会長	
白井委員	

<p>鈴木副会長</p>	<p>て、お母さん達がそこで話せることによって気持ちが楽になるというのが大きかったということです。そこで、市で行っている3か月や6か月の健診の中で他のお母さん達と繋がりを持てるような機会が持てないかという話になりました。</p> <p>それは、健診だけで終わりではなくて、せっかくそこに来ているので、お母さん同士が出会えるという時間を作り出せたら良いのではないかということでした。</p>
<p>白井委員</p>	<p>健診を出会いの場として繋げることはできないのか、また、健診で出会ったあとはお母さん同士に丸投げではなくて、その出会いをどう繋げていくかということと、健診の時に母親同士が交流、話す時間が無いという意見が上がりました。出会いの場の後の知り合えた仲間が気軽に集まれる場所があればいいなという意見もありました。</p> <p>子育て支援センターに来たお母さんの関係が元々出来ているお母さん達の中に入りづらいので、そのお母さん達の輪が出来る前に関係をつくるために健診の場の中で交流が持てないかという話になりました。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>市が実施したアンケートの中の自由記述を読むと、お母さん達は生真面目に100点満点のお母さんにならなくてはいけないと思っていて、頑張ろうとしている姿が感じられます。そういうお母さんが家族の中で祖父母の方などに気兼ねがあつて、罪悪感があつて、あるいはもっと自分が責任をもって子どもと向き合わなくてはいけないんじゃないかと思っていて、やっぱりお母さんが子育てを自分で引き受けなくちゃいけない状況があると思います。それにはちょっと愚痴を聞いてもらったり、同じような境遇の人と出会えたりする</p>

	<p>ことがやはり大事です。じゃあそれはどこかというところ、いきなりそういう場所がありますよということではなくて、健診だとみんなが義務として受けてくれるという場があるので、そういう機会を上手く活用したら、最初の出会いがそこで動き出すのではないかなということ、これを我々の中心課題としました。そこで出会うというプログラムをもう一つ用意することと、次にどう繋げるか考えていかななくてはいけないなと思いました。うちの部会としては来月もう一回会議があるので、そういう課題意識をどう具体的なものとして形として考えると可能性が見えてくるのかことを次回やりましょうということになりました。</p>
渡辺会長	<p>ありがとうございました。すみませんが、今の話の中で三つ目はどのようなことだったのでしょうか。</p>
白井委員	<p>サービス利用に対する罪悪感です。一時利用の場が得られたとしても、それを利用することに対して前向きな気持ちではないということです。</p>
鈴木副会長	<p>意識の中で罪悪感というのは大きいなと感じました。自分が子どもをみるという責任を引き受けなければいけないことと頼みづらいということや色々なことがあると思います。</p>
渡辺会長	<p>ありがとうございました。続いて学齢期についてお願いします。</p>
岡村委員	<p>学齢期の話の中で三つ意見が上げられまして話し合いました。</p> <p>一つ目は、不登校になった場合、どういった対応をしていったらよいかということです。これについては、学校を変えるということは、今でも出来るそうですが、引きこもりの中身、内容が全部違うので、それに対して色んな相談が出来る人材が必要ではないかというこ</p>

と。また、家庭でのあり方、学校と家庭がどのように向き合っていけばよいかということが上げられました。ただ、社会との接点が切れてしまうのが一番心配なことなので、周りの子どもについて広く関心を持ってみていこうと子ども達から学校の様子を聞いたりしていこうということが上がりました。これらの点については、今後も話し合いを持って行きたいと考えております。

二つ目は、人生前半の社会保障の充実ということです。全ての子どもが同じ教育を受ける環境づくり、これは色々な制度もあるので、それを皆さんにもっと知ってもらおうようにするということが、また、援助者がある程度の権限を持って対応ができるようにすることが上げられました。このことは色々な制度があつて、説明をしても、それに対応がすぐにできる人が少ないので、対応が出来なかった場合に不幸な事件等が起きてしまうことがあります。したがって、生活をコーディネートできるような人材が必要ではないかという意見もありました。また、色々な個人情報保護の仕組みを考えれば、必要な人に情報を伝えることができ、よりよい社会保障を受けさせることができるのではないかという意見もありました。

三つ目は、学童保育のことです。学童保育の普段の様子を視察してもらいたいと思います。それには抜き打ちで見ていただいたほうが衛生面や普段の子ども達の生活も見ていただけるかなと思います。また、指導員の資質の向上のためにも、指導員の会議を年2回位やっていただけたらと思います。

これら以外として学校へ通う子どもたちの安全を考えて自宅から学校まで距離がある子どもにはスクール

<p>渡辺会長</p>	<p>バスの利用がもうちょっと出来れば良いかななどの意見がありました。</p> <p>私は学齢期だったので、少し補足をさせていただきます。</p> <p>不登校の問題、経済的な事情で教育を平等に受けられない環境をどう埋めていくかということ、学童の保育の課題が上がりました。その中で共通していた問題は、利用できる制度はあるけれども、それが本当に必要な人まで行き渡っていないのではないかという問題についてどうやったら取り組めるかということです。行政がやるべきことも、民間でやれることも、地域の人達が協力してやれることもあるだろうと思います。ただその中にはある程度の限界もあると思います。また、個人情報問題も大きいと思います。</p>
<p>松倉委員</p>	<p>経済的社会保障の中で、援助者の権限強化という話がありましたが、この援助者というのはどういった人をイメージされて話をされたのでしょうか。</p>
<p>齋藤委員</p>	<p>私が発言したことですが、就学児でまともな教育が受けられない方が何人かいらっしゃるのが現実で、そういう場合、保護者に問題があると思います。子どものために援助をする制度を紹介しても、保護者が対応してもらえなければ何も制度が受けられません。ですから、子どものために保護者の代わりに子どもへの援助が出来るものが作れないかなと思います。</p>
<p>渡辺会長 鈴木副会長</p>	<p>他に各部会に対して、質問等はございますか。</p> <p>マタニティのことで、自分の経験の話ですが、長女が沖縄に嫁いで出産をしました。出産した病院は1週間の入院期間に赤ちゃんのケアをするのに必要なオムツの交換や沐浴の仕方を旦那さんが一通り研修する時間がありました。それはその病院として行われている</p>

ことですが、最初に旦那が赤ちゃんとの関わり方の指導を受けるとその後が大分違うなと思いました。女性はお腹の中に赤ちゃんがいて、赤ちゃんと付き合っ親になる自覚を持ってくると思いますが、男性は産まれて初めて覚悟を実感するようになるので、病院にいるうちにおむつを替えてみるとか沐浴をさせてみるとかという経験をしていると良いなと思います。そういったことは、ここら辺の病院にお願いしてやってもらえると良いなと思いました。

それから、マタニティ講座のことですがいろんな声を聞く中で、土日にやって欲しい意見がありました。以前に公立の保育所と共同でマタニティ講座を何年かやったことはありますが、土日に保育園で実施というとなかなか難しいですよ。土日にできる方法があれば良いと思いますが。

また、個人情報の問題ですが、講座の事業主体の我々が妊産婦の情報が得られないということがあり、妊婦さんに来て欲しいのですが、声が直接かけられないということがいつも課題としてあります。保健師さんには随分紹介してもらったり実際に参加していただいたりとお世話になっているのですが、せっかく開いても人数が思うように集まらないということがあります。

そういったことは、やっていることが知らされなかったら、結局誰も来ず、長く続きませんでしたということになってしまいます。情報提供の仕方のやり方があるのではないかなと思います。

今はメールアドレスを登録すると情報が送られてくるようになっているそうで、今までは母子手帳を取りに来てくれた段階にいつこういう講座があるというお話をしていたということでしたっけ。

松倉委員

事務局・圓川	今は出生の時に「富津市安心安全メール」で今後の母子事業の日程を配信しているので、登録をお願いしています。
渡辺会長	今はやっていないのですか。
事務局・圓川	今はやっていないというか、自由に情報をとっていただくのは構わないのですが、そういう方法で妊娠期の情報を流すことはできるなと思いました。
松倉委員	そういうご提案はいただきました。
鈴木副会長	それはいいですね。
能城委員	公立保育所で、年2回マタニティ講座をやっていますが、最初はマタニティ講座だったのですが、マタニティの方は集まらないので、今はマタニティ&子育てパパママミニ講座としてやっています。広報としては、広報ふつつとホームページに載せること、各園でチラシを作って配布をしています。だけどやっぱり人は、集まらないです。これは健康づくり課にマタニティ向けにお願いをしたら配信していただけるのですか。
事務局・圓川	その情報を取る、取らないは本人の選択になりますが、メールの配信を受けると妊婦さんのイベントや集まる情報とかが随時入ってきますよと伝えておけば、そういうところに行きたいなと思っている人は積極的に登録をして見てもらえる可能性は高いと思います。
松倉委員	皆さんが働いているということも大きいかもしれません。平日だとちょっとと思われる人がいて、どのように情報提供をして、どういうときに開催するかということもあるかもしれません。
渡辺会長	土日開催ということで問題があったというのは、既存の園児との関わりの問題ですか、どういうところに課題があったのでしょうか。
鈴木副会長	和光でやった方法でいうと、本物の赤ちゃんに触れ

<p>渡辺会長</p>	<p>てもらおうという体験型の講座だったので、そもそも土日になると保育園を利用している赤ちゃんが保育園に来ないので、土曜や日曜にやるとすると来てもらわないといけなくなります。また、職員は交代で休めばよいですが、休むとなるとその交代要員の問題もありますので、やれる範囲で考えると平日になってしまうということです。利用者側からすると土日に来てくれたらなという声としてはあるということだと思いますが。</p> <p>マタニティ期の出会いの場を設けるといのは、これはすぐにでも出来ると思うのですが、今までにそういう制度があったのか、これから何かそういう制度を設けようとした場合に何か問題や課題というのはあるのでしょうか。</p>
<p>事務局・圓川</p>	<p>健康づくり課の乳児の教室というのは、5つ教室があります。4か月、5か月、7か月、10か月、1歳というように1歳までに5回、同じ月生まれの方を集めて、月1回教室をやっています。教室は10時から始めてほしい1時間位で終わるような流れでやっていて、そのあとスタッフと個別に面接する時間を設けています。終わったら帰っても良いのですが、ほしい皆さん帰らず、そこに皆さんいて、他のお母さんと話したり、子どもがそこで遊んでいます。ほしい12時位で鐘が鳴って、解散という感じです。もちろんすぐに帰ってしまう方もいますが、残っている方は連絡先を交換したり、5回位やるとなんとなくグループになるような方達もいます。スタッフもなるべく継続してきて頂いている方達は、仲間になってくれるといいなと思っているので、最初の4か月に来たときの自己紹介の時に地域とかどこに住んでいるとか言って下さい</p>

	<p>ねと言っています。そうすると自分の住んでいるところと近い人がいると自分から声をかける方もいますし、メールアドレスを交換している方もいます。また、1歳半健診の後は公立保育所がおひさま広場というものを市役所のホールで実施しているので、そこで遊びに行く方もいます。そこでは保育所のPRもしているので、保育所の様子や普段も遊びに来てても良いんだよということを紹介しています。</p> <p>健診では、なかなか仲間作りは出来ていないと思いますが、教室ですと時間もあるので、ゆっくりと遊んだりしている状況です。</p> <p>そういう制度があって、取り組みをやっているけど、アンケートをやるとそういう要望が出てくるというのは、何か問題があるんですかね。行きづらいとかあるのでしょいか。</p>
<p>渡辺会長</p> <p>白井委員</p>	<p>子どもが小さいときに何度か教室に参加したのですが、たまたま自己紹介の回じゃなかったのか、他のお母さんとお話できる機会がなくて、終わった後に話している方もいましたが、結局そこに入っていけなくて、帰ることがありました。そこで、もう少し他のお母さんと触れ合える機会があったら良かったなと思いました。</p>
<p>渡辺会長</p> <p>松倉委員</p>	<p>今の声は切実だと思います。これは、ちょっとした健診時のやり方で改善できると思いますが、どうでしょうか。</p> <p>同じ時期に産まれた子が集まるということは、1回目、2回目を逃してしまうと仲間作りを逃してしまうという可能性もあるんですかね。もともと仲間作りを目的で考えていなかったというのはあると思いますが、子どもがどんな風に育っていくのかというのを考</p>

事務局・圓川	<p>えたら、始めは同じ時期だと思いますが、ちょっと成長した子達の姿を考えたときに産まれがずれた子達が集まるというのは趣旨が変わってしまいますかね。子どもの育ちが見ていけるという会があっても良いかなと思います。</p> <p>そういう目的で実施するとしたら、別の会になりますかね。</p> <p>教室ではその時期に必要なことをやっています。体重の伸びだとか、離乳食はどれ位の硬さなのか、どれくらいの量を食べたらいいのだろうかということをやっています。乳児期は変化が大きいので、その時その時に確認していくことが目的です。ただ、小さく産まれた子どもは修正月齢をかけて、1か月とか2か月ずらして教室に参加してもらったりしています。富津市は人数が少なく、教室も1回なので、1日に産まれる子どもいれば、30日に産まれる子どももいます。1か月の期間をずれなくやっているの、30日に産まれた子どもは次の月の回に来るでも問題はありません。</p>
鈴木副会長	<p>健康づくり課のプログラムとしては、出会いの場をそこで作るというのは主たる目的ではないけれど、我々の側からすると仲間作りの会をしますと言っても人が集まらないので、そういうときにチャンスとしてそういう場の中で繋がりが作り出せればいいのかというのが願いとして出てきたのかなと思います。そこで全部解決できるわけではないので、ネクストステップとして、次に繋げていけるといいなと思います。</p> <p>保育園でもいろんな相談を電話で受けたりしますが、やっぱりいきなり専門家に電話をかけるというのは勇気がいるんですね。そういうところで出会った同じ仲間たち心配事を言って、「うちもそうだよ」って</p>

事務局・圓川	<p>言ってもらえたりすると、安心できることがあると思います。専門家に聞く前の最初の一步が踏み出せることが大事かなと思います。その次をじゃあどうするかということはあると思いますが、健康づくり課に全部お願いしますというよりも、どういう風にやったらそういうことが作り出せるか考えていけたらいいなと思います。</p> <p>教室の最後に子育て支援センターの話もしていて、チラシなどを渡したりしています。遊びに行くところという話を聞けば、子育て支援センターの紹介をしたり、そこに行っている人からそこでの様子などをお話してもらったりしています。ただし、時間がなく、そういうお話ができなかったり、メンバーによってはそういう雰囲気の話ではないときもあります。</p>
渡辺会長	<p>ただ、積極的に話すことはできるかもしれません。</p> <p>行政の中でも健康づくり課の業務としては、健診が主たる目的であると思います。行政の縦割りの中でやっていると弊害が出てくる気がします。健診に来ている人にみんなと交流したいのにと思っているものを拾い上げるにはもうちょっときめ細やかな対応をしなければならない、それは部署を超えて横串を通して対応しなければならないと思います。それは健康づくり課だけが主管で健診をやるだけではなくて、そのときに子育て支援課が中心となって、もう一步踏み込んだ取り組みをやるのかというのは、考えられくないんじゃないかと思います。それはあまりお金がかからないんじゃないかなと思いますが。</p>
事務局・下間	<p>その辺は、課長、部長どう思いますか。</p> <p>先ほどお話のありましたおひさま広場ですが、健診の後に市役所のロビーで実施しています。回数は少な</p>

<p>渡辺会長</p>	<p>いですが実施しています。</p> <p>健診に来た人の集まったところでやりたいですよ ね。</p>
<p>事務局・圓川</p>	<p>この502会議室で健診を行っていますが、ここではスペースの問題で難しいと思います。おひさま広場は、市役所のロビーでやっていますが、フロアは別でも話したり遊んだりする空間が別であればよいのかということです。1歳半健診の後のおひさま広場はだいたい実施していますが、そこには健診に来る人じゃなくて、それをめがけて継続的に遊びに来る方もいるみたいとのことは聞いています。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>具体的にどうやってやるかというのは、もうちょっと話し合いをして丁寧に詰めていけば良いと思いますが、わざわざ場所を変えるというのは手間だと思います。そこで集まった勢いで工夫を出来るかというの、それはどうしたら出来るのかというのは、みんなアイデアを出し合っていたほうが良いかなと思います。</p>
<p>磯貝健康福祉部長</p>	<p>子ども・子育ての話と合致するかどうかはわかりませんが、私は地元で廃校になった小学校の活用として、自然学校を開いています。そこには、子どもを連れて親子で参加してくれていますが、例えば稲刈り体験に今度10家族が参加してくれますが、まず、最初にミーティングをして、自己紹介をして作業をする中でいろんな家族が打ち解けてきます。そこでいろいろ話をする中で、また次のイベントを企画したときにリピーターとなって参加してくれます。</p> <p>今言われている教室の中で、そういう前段を設けてやっていけば、仲間作りというものが生きてくるのではないのかなと思います。</p>

鈴木副会長	健診でやればいいんじゃないなくて、いろんな所でそういう出会いの場があって、そこで繋がるチャンスがあることが大事だと思います。チャンスがあるのだったら生かしたいと思います。
磯貝健康福祉部長	それだけのスタッフとか時間的余裕があるかということが課題であるとは思いますが。
鈴木副会長	アンケートの結果の記述を読むと切実だなと思います。それをわがままという風にみてしまうと終わってしまいますが、実際にそういう家族とか地域の関係がこのくらい頼りたくても頼る人が身近にいないということが起きているということは切実だなと思うと、どこかで出会わせてあげたいし、つなげてあげたいなと思います。このことはもうちょっとみんなで考えていかなければいけないかなと思います。
渡辺会長	この件について、木下さん、白井さんいかがですか。利用できそうだなと思いますか。
白井委員	積極的に参加できる方にはそれだけの機会は与えられていると思いますが、そうじゃないとなかなか難しいので、そうじゃない人にも参加しやすい環境を作ってもらえると嬉しいなと思います。
木下委員	子育て中の当時は、家事とかで、そういうところにたどりつけなかった自分がいたので、参加できる余裕がなかったですかね。
鈴木副会長	木下さんの余裕がないということについては、グループではちょっとした手助けが子育てにあると助かるという声が上がっていました。それは洗濯物を畳んでくれるだけとか、ちょっと夕飯の支度を手伝ってくれるだけでいいとか、我々の世代からするとわがままだと思うことを思っていて、その位まじめに100点満点の母親を目指しているのだけど、自分としてはど

<p>渡辺会長</p>	<p>うしようもなく、ちょっとした手助けがあると随分子どもと向き合えるし、お母さんたちは真剣に考えています。そこのところで、実際どういう手助けをそういう方にしていったらよいかということを考えていけないといけないかと思っています。そういう声は、一人二人の声じゃないのだということは共有したいなと思っています。</p> <p>今の話題のほかに全般を通して、ご質問・意見があったらお願いします。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>学齢期ですが、実際学童のことや不登校の子どもをどうするかという切実な問題があって、そこに関心がいくし、解決しなくてはいけない問題だと思いますが、それだけではないかなと思います。先ほどの部長の自然学校の話がされましたが、学齢期に学校だけの学びでは十分ではないかなと思います。学校でやれることと学校で出来ないことがあると思います。人生にとって、人間形成をしていく学びを考えたときに、学校以外で学んでいることっていっぱいあると思います。どんな家族でどんな地域で育ったのかとか、自然学校に出会ったとか、いろんな形で、どこでそんなことを覚えてきたんだという、私たちが教えてないことを学ぶ場というのはいっぱいあって、そういうことが昔は家庭の暮らしの中にいっぱいあったんですね。今は生活や道具が便利になって子どもが洗濯しなくても洗濯機が自動で回ったりと、家庭の暮らしの中で学びがなくなっているということとか、そういうことが今の生活の中で起こっているのですよね。だからもっと地域の中で子どもが学ぶという機会を作り出すということが次の世代を担うって中で大事だなと思っています、そういうことを学校と連携しながら、社会教育とか家庭</p>

教育とかの教育の3本柱があるけれども地域教育も家庭教育も怪しくなっている中で、新しい学校以外で学ぶことを作りださなくちゃいけないなと思っています。じゃあ、学齢期でどうするか何ができるかってことは、もう一つ課題として考えたいなと思います。この会議で言えば、未来のお父さんお母さんをどう育てるか、どういう経験を積ませてあげられるかということを考えたいし、学校の座学で性教育や結婚観や家族観とかということもどこかでするかもしれないけれども、何か座学ではない学びみたいなものを子どもの育ちの中で必要だと思っていて、学校の中で抱え込まないで、地域の中に解き放つというか、地域に育ててもらえるものが作り出せるといいなというのが私の願いとしてあって、それは部長が取り組んでいる自然学校がまさにそういうこと何だろうなと思うんですよね。子どもが地域に出て行って役に立つというかそういうことがあるのだろうなと思いますが、あまり子どもをあてにしていないというか、地域や社会があてにしていないということがあって、お前たちはどうせたいしたことができないんだから端に寄っておけみたいに子ども扱いをして、大人として育つことを妨げているところがあるなと思います。そういうことを富津市としてどういう風に創り出せるかなと思います。すごく大事なことだと思いますが、学齢期に考えて欲しいという考えはないのですが。

渡辺会長
齋藤委員

今の意見について皆さん、どうでしょうか。

地域で子どもを育てるということですが、それがその子どもの親の考え方と一致すれば上手くいくのですが、難しい部分がいっぱいあるのではないのでしょうか。だいたい自分の子どもが他人にいろいろ言われ

<p>渡辺会長</p>	<p>るのをよしとしない方が普通多いと思いますし、親が子どもを理想的に育てようと思うことが一般で、それを趣旨の方向の違うものを教えようとするとなんか拒否の反応を示すのが普通なのではないでしょうか。だから、その辺も考慮してうまい舵取りが必要になってくるのかなと思います。</p> <p>それぞれに考え方があって、親に考え方が千差万別あって、一つの型にはめるのは難しいですね。学童の話の中でもありましたが、多様性ってことだと思います。いろんな居場所があって色々な取り組みがあって、それがお祭りの太鼓かもしれないし、自然学校かもしれないし、そうやって自分たちで学ぶ力を身につけていくということであれば、それはそれぞれに多様性があるって選択肢があるってということが前提条件で地域に解き放たれるということなんじゃないかなと思います。これは、両論併記の意見は良いと思います。そこにはこういう課題もあってという書き方でも良いと思います。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>解き放つというと、放り出しちゃうというイメージになってしまうけど、責任ある引き受けるところを世間の中に作っていく、学校に全てを任せるんじゃなくて、学校での学びも大切だけでも、学校以外での学びもどこかでして欲しいと思うと、自然学校のような、引き受けられる人数に限りがあると思うけど、そういうところを作っていくところをどこかで意識していないと、危ないとか安全だからで、親の仕事が終わるまで学校の中に引き止めておくことが良いことだということになると、子どもの育ちとして心配だなと思います。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>岡村さん、いかがですか。</p>

岡村委員

私は自分で学童の指導員をさせていただいて、毎日いろいろなことを子どもたちにしてもらっています。食事をしたら自分たちで洗い物をしてもらいますし、部屋の掃除も毎日自分達で掃除機を使ってしてもらいます。ぞうきんがけとかも自分たちでしてもらって、ぞうきんとテーブルふきんと茶碗ふきの違いがわからない子どももいて、そこから教えています。今では、掃除も上からちゃんとできるようになってきています。子どもは、1年生で入ってきて1年間習うだけで、2年生になったときはものすごく出来るようになっていて、遊びも自分達の中で考えて作っているの、うちでは子ども扱いというのはしていません。ただ、身体が小さいからいろんな意味で危険がいっぱいありますが、きちんと一つずつ子どもに伝えていけばすごく早く理解してくれます。例えば蜂やカラスのことだとか、自然の中のことも教えるとすぐに覚えていきます。

だから、そういう場所がたくさんあったら良いと思います。私もボランティアでお手伝いしたいという要望や月の第1日曜日にこういう風に過ごしてみませんかということこれからどんどん出来たら良いなと思っています。私は私の中で出来る限りのことをして、また新たなことがあったらお手伝いをしていきたいと思っています。

渡辺会長

他にご意見、ご提案はありますか。

今、一通り3つの分科会のことについて、質問、意見、ご提案をいただきました。これをこういう意見がありましたと並べて書いていくとか、列記していくことで、一つの意見ということになると思いますが、ここでみなさんにご協議いただきたいのが、このメンバーでの会議があと1回ありますが、この任期の中で、

	<p>何かしらこれをやりなさいと市長から諮問されているわけではないので、決まったテーマがあったわけではないですけども、その中で、この会議のなかで皆さんで議論したことをある程度、まとめて報告したいと思っています。そのまとめ方をどうするか、方向性を議論していただきたいと思います。今日3つの部会で出たことを文章としてまとめて、こんな意見がありましたということを出すことは、事務局と会長、副会長である程度話をまとめていきたいと思いますが、何らか具体的に行政に対してこうやるべきだとか、こういう方向でやるべきだとか、具体的な話がありましたら、ここで意見をいただきたいと思います。また、次の会議のあり方も含めて考えていきたいと思っています。</p>
事務局・下間	<p>皆さんから今まで伺っていたご意見の中で、市としてすぐに出来るのはPRが足りないというのは、伺って感じました。マタニティ講座や学齢期の社会保障や経済的なものとか、市も何もやってないわけではないのですが、PRが足りないというのはわかりました。これらについては、予算的なものもかかりませんし、すぐ出来るものですので、こういったことをもっと意見としていただければと思います。まず出来ることはそこだと感じました。</p>
渡辺会長	<p>今課長からお話がありましたけど、3つの部会の全般を通して言われているのが、本当の課題として、本当に利用したい人、必要としている人に情報が届いていない、制度が理解してもらえていないということで、皆さんが感じていることですよね。マタニティにしても、学齢期にしても、就学前にしても、みんなそうだと思います。一つのテーマとして、今提案がありましたけど、どうやったらそれを必要な人に届けることが</p>

<p>松倉委員</p>	<p>できるか。我々が考えてもいいんじゃないかと思いますが、難しいですが、皆さんいかがでしょうか。</p> <p>具体的なことが話せれば、話したほうが良いとは思いますが、何か新しいこと、方向性の何を決めるということはこの短時間の中で作っていくというのは難しい所もあるだろうと思います。次の2期の委員さんに私達が話した何を引き継いで行ったら良いかを考えて、色々考えると大変で難しいことなので、1か月後に出てくることではないと思います。この部分については、すぐに出来ることではないだろうかということ議論して進めていくにしろ、次の人達がどういう方向性でこの富津の子ども子育ての内容を進めていって欲しいかという提案をしていったらどうかなと思います。マタニティ、学齢期、未就園ところで話し合われたことで共通で出てきたことが「出会い」ということと、それをどういう風につなげていくかとか、ネットワークやコミュニティ作り、あとは今までよく言われていたことですが、そういうことをキーワードにして各グループでどういう出会いなのか、どういう形であって欲しいのかっていうような方向で最終的なまとめにしたほうが、新しいものを考えるより、次に繋げていけるかなと感じました。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>今キーワードをいただきましたが、「出会いコミュニティ作り」、あるいは「これからどうあるべきか」ということですね、そのことをキーワードにして、次の会に伝えていったらどうかということですね。</p>
<p>松倉委員</p>	<p>何か新たなものを言って、それを予算立てることが必要になるのですか。</p>
<p>事務局・下間</p>	<p>必ずしもそうではありません。反対に予算的には厳しい状況です。</p>

鈴木副会長	<p>やっぱり、「出会う」と「コミュニティ」が課題になる位、現代の社会が弱くなっているということだと思います。それをどうやって具体的に作り出すかということが、最大の最重要テーマだと思います。今までやってきたことの中で、あれを使えばいいとかこれを使えば良いとか、そこそこで終わらせてしまうのではなくて、みんなにとってこれはおもしろいよと思われることやこういうことだったらみんな出会いたくなるよなっていうことを、考え出していくということがすごく大事で、それは新しい知恵として生み出していかないといけないと思います。なので、この会議の進め方としてゆっくりかもしれませんが、一つ一つ自分達の中で課題意識を持って、どういう課題があるかということをも念頭に拾い出して、それをどうしたら解決に向けていくことができるかを何回もあきらめずに議論していくことを市と協働で作業として、やっていくんだという関係は継続してもらいたいと思います。</p>
渡辺会長	<p>今の話は、継続して問題を共有していくことですね。それをずっと続けましょうということですね。</p>
鈴木副会長	<p>それを共有して、解決に向けてあきらめないで作業していくということです。</p>
渡辺会長	<p>今出ているのは、課長から出ました情報伝達する方法の一つ、出会いコミュニティ作りをどうやって作っていくか、次の会議の議論のテーマとして作っていったらどうかということと、鈴木委員からそれを継続して行って、どんな解決したらいいかということ作業していこうという話ですけど、他の皆さんいかがでしょうか。</p> <p>これをこうしましょうと結論を出しづらいテーマ、課題ではあると思いますし、正解もないと思いますが、</p>

鈴木副会長	<p>そんな中で、どういうことをやっていくか、何を提言、提案していくかを皆さんで考えていただければと思います。</p> <p>予算編成時期も迫っていて、時間が無い中で出来ることは何だろうとなると思うのですが、さっき言った乳幼児健診を使っての出会いの場をどういう風にしたらってという所は、具体的な形で見えてきているし、すでにやられていることも含めて、それをより充実した形で出会うチャンスを作り出すということは、具体的な一歩として、この会として一つ形にしたということは残したいと思います。</p>
渡辺会長	<p>すぐに取り組めるものと、ずっと協議して認識を高めていかなければ出来ないものとあると思います。制度的なもので言えば今の健診の話もそうですし、それから例えば学齢期でも出ましたが、準要保護の家庭に経済的支援の情報が回っていないんじゃないか、それを具体的にきめ細かく情報を届けたら良いんじゃないかという提案もありました。そういうことは、今回の提言の中ですぐに取り組むべきものとして出せるものと、一方で社会の仕組みとかコミュニティとから考えていなくてはいけない問題も出てきていますので、それはそれで長いスパンで議論していくとして、もし、このメンバーで結論がでなかったら、次の会議のメンバーでそれを引き継いでいって、継続させようというようにまとめていくということ、すぐにできるものと、長期的に取り組むべきことということでしょうか。</p>
委員一同 渡辺会長	<p>賛成です。</p> <p>そうしましたら、その仕分けどうしますか。いろんな議論が出て、ポストイットに出ていますが、これを</p>

<p>事務局・下間</p>	<p>事務局で仕分けしてもらって、それを次回の会議の時にみんなで確認して、提言としてまとめるというのはいかがですか。時間的に間に合わないですか。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>市が考えてすぐに自分たちで出来るものと、出来ないものを分けるということですか。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>そうではなくて、いろんなことが付箋に書いてあることを同じような課題ごとにまとめていって、こんな意見が出ていますと文章でまとめてもらって、標題ごとにまとめてもらって、それを次の会議で我々が分類していくというような形でどうでしょうか。</p>
<p>事務局・下間</p>	<p>すぐにやれそうなことと、少し時間的な作業が必要なものと分けてもらって、それを各グループの座長に次の会議の前に返して確認してもらい、次の会議において、みんなで議論して、これは中長期になってるけれども、短期ですぐにやるべきだとかを調整をすることによってどうでしょうか。</p>
<p>事務局・下間</p> <p>渡辺会長</p>	<p>わかりました。</p> <p>多様な意見が出て、これはダメだという話じゃないですよ。この会議は多様な意見が出ていいものであって、それぞれの意見を尊重しなければいけないと、それは出していいんじゃないかと、その中で仕分けて、提言をまとめるという形でいかがでしょうか。</p>
<p>委員一同</p> <p>渡辺会長</p>	<p>わかりました。良いと思います。</p> <p>それでは、そういう形をとらせていただきたいと思います。</p> <p>事務局は、まとめて各座長に報告していただければと思います。</p>
<p>事務局・下間</p>	<p>6 事務連絡</p> <p>事務連絡として、今後の日程についてご説明いたし</p>

	<p>ます。</p> <p>この子ども・子育て会議の委員の皆様は、平成27年11月13日までとなっております。事務局といたしましては、来月10月30日金曜日の午後に、2回目の会議を開催したいと考えております。</p> <p>また、3回目は11月下旬に開催を予定しております。</p> <p>なお、次期の11月以降の委員ですが、事務局といたしましては、皆様に引き続き委員として会議に参加していただきたいと考えております。</p> <p>今後、個別に依頼して参りますので、できる限りご協力いただきますようお願い申し上げます。</p> <p>委員の皆さんから意見等はございますか。</p>
渡辺会長	<p>次回の形式は、部会ごとにやらないでこの全体会の形でやるという形ではよろしいでしょうか。</p>
鈴木副会長	<p>私たちは、具体的な話をグループ討議で話しましょうとしているのですが。</p>
渡辺会長	<p>部会をやるべきだということですかね。</p>
鈴木副会長	<p>今日部会で、全部話しきれなかった所がありました。</p>
齋藤委員	<p>部会の話の時間を短めにとって、全体会の時間を少し長めに取るような形ではいかがでしょうか。急ぎ足になるかもしれませんが、部会で出されてある程度分かれたものをもう一度部会で話を揉んで、ここに出せるような話にしたほうがいいと思います。</p>
渡辺会長	<p>では、時間配分もありますけども、会議の前半にグループ討議をやって、その後に全体でやるという形で、その辺を踏まえて資料作りをお願いします。</p>
事務局・下間	<p>はい。わかりました。</p>
渡辺会長	<p>他にありますか。他になれば、長時間にわたりありがとうございました。今日は、大変有意義な話し合</p>

いになったと思います。次回 10/30 に是非よろしくお
願いします。

それでは、長時間お疲れ様でした。平成 26 年度の第
5 回富津市子ども・子育て会議を終了いたします。引
き続き、平成 27 年度もよろしくお願いたします。

閉会